

都市行政調査 報告書

- 調査日時 令和7年2月25日（火） 13:00-15:30
- 調査項目 NEC ネットズエスアイ
・消防・防災DXソリューションについて

- 参加議員
今 識史

【調査先】

NEC ネットズエスアイ本社ビル
〒108-0023 東京都港区芝浦3丁目9-14

●調査概要

2025年2月9日に山形県尾花沢市で実施された冬期防災訓練において、NEC ネットズエスアイ株式会社は、積雪寒冷期の災害を想定した先進的な災害対策ソリューションの実証を行った。本訓練は、能登半島地震や東日本大震災など、冬期に発生した大規模災害を踏まえ、地域住民の防災意識向上と具体的な対応力の強化を目的として、市が企画・運営したものである。

NEC ネットズエスアイ株式会社は、尾花沢市との包括連携協定のもと、同社が開発したオールインワン型ローカル5Gシステム「HYPERNOVA」と、低軌道衛星インターネットサービスを組み合わせ、通信インフラが寸断された状況下でも迅速にネットワークを構築できるかを検証した。小型・軽量で持ち運びが可能な「HYPERNOVA」は、被災現場や避難所での即時展開を想定しており、現場職員の連絡手段や情報共有を支える安定した通信環境の構築が確認された。これらの最新の実証結果を調査する。

●質疑応答

問：実際にはどのぐらいの距離を想定して実証したのか。

答：ローカル5Gシステム「HYPERNOVA」を中心に200m程度からである。

問：通信速度や通信量についてはどうだったか。

答：想定されている避難者全員が家族とメッセージのやり取りを行っても問題ない程度には機能した。

問：今回の成果と今後の課題については。

答：通信インフラが寸断され、かつキャリアの中継車が現地入りできない時などに、しっか

りと通信インフラを支えることができることがわかった。一方でまだシステムが高額であったり、方角によって通信速度に違いが出るなど、研究の余地がある。

●所感

こうした高度な通信技術を活用した災害対策は、気候変動の影響による大規模災害の増加が懸念される中、今後の地域防災において極めて重要である。とりわけ積雪寒冷地である帯広市においては、冬期災害への備えとして、迅速かつ柔軟に対応可能な通信インフラの整備が求められる。

本視察を通じて確認された先進事例や技術的知見は、今後の防災体制の強化に大いに資するものであり、帯広市においても同様の取り組みの導入に向けた調査・研究を積極的に進めていく必要がある。

